

作物名：ねぎ
病害虫名：小菌核腐敗病（病原：*Botrytis squamosa*）

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・葉鞘及び葉に発生する。
- ・地下部の葉鞘が発病すると、地上部の生育は抑制される。
- ・葉鞘では、表面に淡褐色の病斑を生じ、次第に拡大して外葉から内葉に向かって腐敗する。被害がひどい場合は、病斑を中心に縦に亀裂が入り、内葉が突出することがある。（写真1）病斑が古くなると表面に黒色、楕円形～不整形のやや盛り上がった菌核を多数形成する。（写真2）
- ・葉では、黄白色の小斑点や葉先枯れを生じ、高湿度では暗緑色水浸状で大型の不整形病斑となり、その上に分生子（灰色のかび）を多数生じる。
- ・葉鞘と葉では、葉鞘に発病した場合に被害が大きくなる。



写真1 発病後期の葉鞘の裂開

2 伝染源・伝染方法

- ・夏は菌核の形で作物残渣や苗の表面、土中などに残存しているものと思われる。気温が低下してくると、ほ場などに残った菌核の上に胞子が形成され、これが飛散してネギに付着し、発病する。
- ・胞子が飛散し空気伝染する。
- ・土中に残った菌核から直接菌糸が伸びてネギに感染する。



写真2 発病後期の葉鞘内の菌核形成

3 発病しやすい条件

- ・本病菌は糸状菌の一種で、不完全菌類に属する。（写真4）
- ・比較的低温を好み、晩秋から春にかけて発生する。
- ・本病の発生は年次変動が大きく、冷夏の年の秋には多発し、猛暑の年には発生が少ない。

4 防除方法

- ・ほ場の排水を良くする。
- ・多肥は発病を助長するので適切な肥培管理を行う。
- ・発病株はほ場外に持ち出して処分する。
- ・発生ほ場では早期出荷を心がける。

5 出典

(1) 参考文献

- ・日本植物病害大辞典（全国農村教育協会）
- ・農業総覧原色病害虫診断防除編3-②（農文協）
- ・農業総覧病害虫防除・資材編3（農文協）

(2) 写真

- ・宮城県病害虫防除所撮影



写真3 内葉の葉鞘に形成された病斑

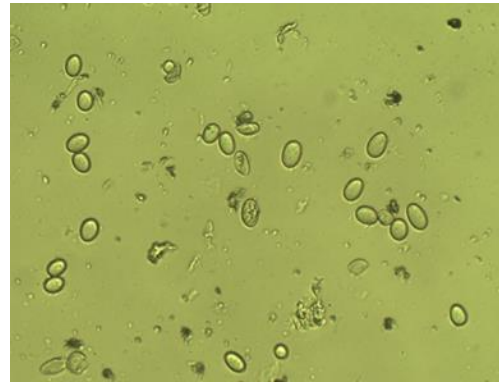


写真4 小菌核腐敗病菌の分生子

(令和5年9月改訂)